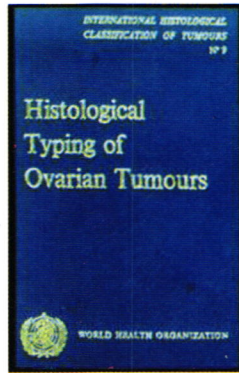


ふてしこ

9 '18
No.274
巡回通信誌



Serov SF, Scully RE, Sobin LH 1973

「WHOの組織分類の 欺瞞と瓦解、及び対策」

名誉院長 西田 敬

発足以来、約半世紀。長期間に亘って、よくぞ婦人科腫瘍医を謀った。先ず、外分泌腺を欠く卵巣に腺癌を発生せしめた。剩え、腫瘍の発生源地として、分化能なんぞ殆ど認めない、表層(体腔)上皮を充てた。これこそ強権発動というか、将に恥辱の上塗り。

遂に、表層上皮性間質性腫瘍は WHO 分類より削除。代替は imported cancer (搬入癌) が用いられる。搬出元は müllerian system、中でも卵管が最有力。これに secondary müllerian system も加わる。大変革に備えて、覚悟も新たに、雌性性腺としての卵巣の責務を再確認。

- はいぐう し けいせい
a) 配偶子形成 (gametogenesis: meiotic process:) 減数分裂過程で半数体 (haploid) 形成を伴う
- けつえきせいそうかんもん
b) 血液精巣関門 (blood testis barrier: blood follicle barrier?) haploid cell の免疫担当細胞 (diploid cell: 倍数体) から保護
- ばいすうたい
c) 各種サイトカインの誘発: Cytokine inducer による (Meigs' syndrome, luteinized thecoma associated with sclerosing peritonitis: 黄体化莢膜細胞腫に伴う硬化性腹膜炎, dermoid cyst complicated with hemolytic anemia: 溶血性貧血を伴うデルモイド腫瘍、など等、...etc)
- しんけいはいぶんびつさいぼう
d) 外分泌細胞は欠如するが、神経内分泌細胞 (neuroendocrine cell) は豊富: interstitial cells, hilus cell, luteinized theca cells, granulosa cells,

*覚悟を要する卵巣腫瘍構成:
神経内分泌腫瘍の発生が急伸の予想 Yao JC et al. JCO 26:3063-3072, 2008

